

飯田卯之吉先生を偲んで



略 歴

大正4年2月 東京本郷に生まれる
 昭和15年3月 大阪大学工学部機械工学科卒業
 昭和25年3月 大阪府身体障害者公共職業訓練所に奉職
 昭和30年9月 国立身体障害者更生指導所に奉職
 昭和34年6月} アメリカ合衆国に留学、日本人初の義肢
 昭和35年6月} 適合士の免許取得
 昭和39年6月} 国連主催国際義肢セミナーにおいて最優
 昭和39年8月} 秀賞を受賞
 昭和44年11月 義肢装具の研究開発に関する高木奨励賞
 受賞
 昭和45年8月 国立身体障害センター補装具研究所長に
 就任
 昭和54年7月 国立身体障害者リハビリテーションセン
 ター研究所長に就任
 昭和55年10月30日 病氣のため死亡

飯田君と私との最初の出合いは、昭和29年、私がアメリカで戦後発達した近代義肢の情報、部品、材料、日本国内での材料入手元などの情報をもち帰って披露したときであった。その翌年、彼は国立身体障害者更生指導所義肢課長として赴任し、昭和31年、国連技術援助による義肢顧問、W.A. Tosberg氏を迎え、アメリカ方式による義肢講習会実施の準備とこれを成功に導くことに協力された。

このような講習は当時、アメリカ、ドイツなどで行なわれていた最初の理論と実技の伝達方式で、講義・実地供覧・実習の段階的繰返しで、実際にモデルを使って製作し、最後に学科試験を含む評価が行なわれた。その後彼は工作法の理論と實際を指導し、私は医学的方面を担当し、お互に協力して近代義肢の講習を繰返し義肢技術水準の向上につとめた。

また彼は病に倒れるまで、乞われて全国を廻り、精力的に講習を続けた。その間、彼はアメリカに一年間留学し、退役軍人管理庁の義肢センターを中心として研修し、各種の講習に参加した。大腿ソケットの形とテンシ

ョンの関係を高等数学で解析し、スタッフを驚かせ、彼の英知とパーソナリティとは周囲の人の信望をあつめ、Uno, Uno（彼の名前）と呼ばれていたと聞く。彼の義肢の適合性とクラフトマンシップのすばらしさは、国外から訪れる専門家も高く評価していた。

特記すべきは沖縄巡廻義肢業務で、短期間に比較的多数の義肢を製作支給するため、近代義肢の技法と特別に考案した半製品部品を用いるなど、彼の指導によるところが大きかった。彼はコペンハーゲンで行なわれた国連主催の義肢、装具セミナーにも参加し、遺憾なく実力を発揮して最優秀の成績をあげ、日本に飯田ありと知られ、日本の義肢の評判を高めた。

4年前、第1回の手術をうけ、健康を回復して活躍していたのに再び病魔におかされ不帰の人となられたことは誠に残念至極である。謹んで心からご冥福を祈る次第である。

医療法人白十字会・佐世保中央病院・弓張病院

稗 田 正 虎